

おんて つちくれ 御手の中にある土塊 エレミヤ18:1-10	2025. 10. 12、丘の上 NO. 759 春日部福音自由教会 山田豊
--	--

先月末の火曜日から10月3日の金曜日にかけて、上越の実家に帰省、そのあと石川県輪島市、珠洲市に入り、富山在住の友人夫妻を訪問して帰ってまいりました。輪島では、2年後輩の牧師夫妻を訪ね、交わりの時を持つことができました。2024年1月1日の出来事が話題の中心になりましたが、自ら被災されながら、地域の方々の復旧、復興にご夫妻で心を合わせて奮闘しておられる姿に、先輩であるこちらの方が叱咤激励される思いでした。

本日の個所は、バビロン捕囚の時代の預言者であるエレミヤが、神のことばを託され、それをユダの人たちに語る場面です。3節に「私が陶器師の家に下っていくと、見よ、彼はろくろで仕事をしているところだった。」とあります。何気ない言葉ですが、いま輪島では輪島塗にかかわる人たち、珠洲では珠洲焼にかかわる人たちの多くは、その仕事が失われているのです。輪島塗会館などに置かれている商品は、新しく作られたものではなく、がれきの中から救出されてきれいにされたものであるということです。珠洲市においては、古い時代の復元された窯は使用できず、珠洲焼資料館はいまだ閉館中なのです。そのような中で、陶芸センターでは活動が少しずつ始められているというお話でした。このみ言葉は、仕事ができるという事は当たり前のことではなく、仕事が普通にできることはなんと幸いなことであるかを改めて感じさせるのです。

陶器師は、暗い地中にある土を掘り起こし、土の塊とします。罪の暗闇にある私たちを、神が救い出してくださったことに例えられます。この土の塊が練られて粘土となります。そして陶器師の手の中であって作品が生まれていきます。陶器師の手の中に納まるように人は碎かれ、人として成長していくことに例えられます。この過程では、何度でも造り直しができます。作品は窯に入れられ、火で焼かれ、窯から取り出されて空気にあたり、作品が生まれます。そのまま薪の火や灰が当たることもあれば、釉薬が掛けられることもあります。これもまた、人が様々な苦しみを通らされて成長していく様に例えることができます。作品が完成すると、作り直されることはありません。しかしこれが割れたり、欠けてしまったりすることがあります。しっかり焼いてあっても、脆いものです。

土の器に過ぎない私たちには、キリストがいてくださるのです。たとえ欠けていたとしても、金継などによって補修された器のように、神のすばらしさを輝かせている作品となるのです。

引用聖句

エペソ 2:8-10 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

ローマ 9:18-21 ですから、神は人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままに頑なにされるのです。19 すると、あなたは私にこう言うでしょう。「それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのですか。」20 人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか。造られた者が造った者に「どうして私をこのように造ったのか」と言えるのでしょうか。21 陶器師は同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか。

2 コリント 4:7 私たちは、この宝を土の器の中に入れて 있습니다。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。



「土の器と十字架」
飛龍窯焼締
写真: 栗原裕治



稲刈りボランティア



珠洲復元古窯、ひび割れている